地域医療を考える会情報紙

なんてん

〈難を転じて福と成す〉

発　　行：地域医療を考える会
＜ＷＥＢ掲載版＞

第 11 号

発行日：2023.11.13

公設民営　刈田綜合病院
病床１９９床　先送り
―看護師不足が課題―

令和元年度までは３０８床の病院でした。現在は稼働病床**１４９床**（一般50床、包括ケア48床、回復期リハビリ51床）です。10月１日から、１９９床で運用する方針でしたが、それに見合う**看護師確保ができず、先送り**となったこと（河北９／27）が明らかになり現在に至ります。

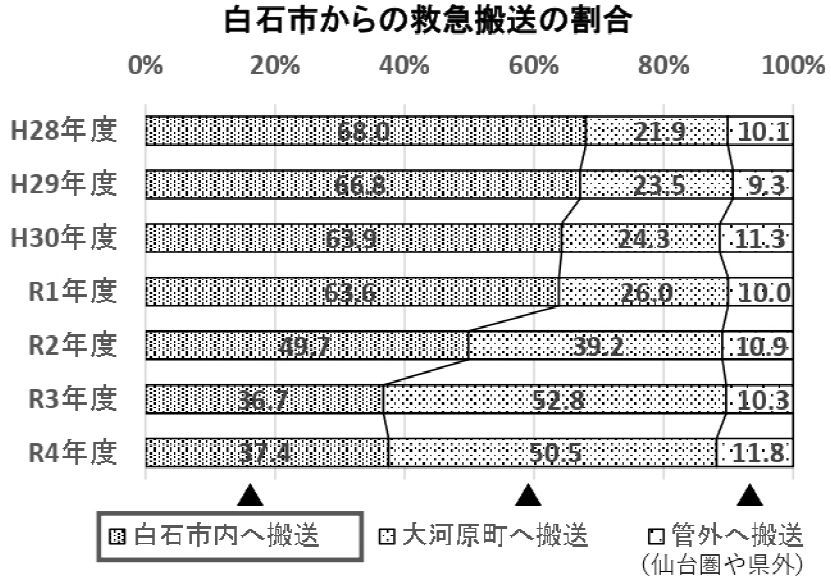
看護師不足を補うため、この冬から「特定技能」の、外国人採用を計画している（河北８／２）とのことです。

１９９床は仙南の地域医療構想調整会議で、中核病院との機能分化・連携において、**刈田病院の役割として必要**とされた病床の数です。

特定技能１号
外国人の在留資格のなかの一つでその中に「介護」があります。

救急搬送の割合の変化
白石市内への搬送は激減
消防年報から（仙南広域行政）

白石市からの救急車の搬送は令和２年度を境に、**市内の病院への搬送が７割⇓４割弱へ減少**、逆に大河原町への搬送が２割⇓５割と上昇しています。



管外（仙台圏や県外）への搬送もわずかに増えています。

白石消防署　救急隊の話

『症状により、救命のため搬送先の選択がなされる。脳疾患疑いの他にも外科や整形外科、循環器科の緊急対応を要すると判断した場合、現在の刈田病院は第一選択にはならない』

白石市（刈田病院・大泉病院）
大河原町（中核病院）

待合室　―消防年報―

刈田病院の変化は市民にどの様な影響があるのか、救急車の活動状況を調べてみた。消防局のホームページには２年分のみ掲載、過去分の問合せに、ありがたい印刷の快諾。用意していただいた、ずっしり重い消防年報の資料と「是非、火災防止に役立たせてください」のお言葉。

そういえば先日の回覧板に**今年は火事の件数が３倍！**皆さん！火の元には、十分に注意しましょう。

夜間こども安心コール：022-212-9390　又は　＃8000

小児救急について

鈴木喜久男医師より

夜中でも病院に向かうべきか

答えは簡単ではありません。どんな病気にも個人差があるからです。

大部分は軽症の病気（かぜ、感染性胃腸炎、熱性けいれん、喘息発作）なのですが、たまには重症の病気のことがあり、油断できません。

在職中にお伝えしてきましたが、危険な症状は、

- 生後４ヶ月までの赤ちゃんの発熱（細菌性髄膜炎）
- くり返す嘔吐（腸重積、低血糖）
- 長引くけいれん（脳炎）
- 意識不明瞭（脳炎）
- ゼーゼーする息苦しさ（喘息の重い発作やクループなど）

判断に迷った場合は**夜間こども安心コール**を利用し、不安が残れば、病院（刈田病院と中核病院の都合が悪ければ、仙台市立病院かこども病院）に向かってください。

☆市民の方の意見コーナー☆

刈田病院の「周産期医療」

数年前、孫を授かりました。娘は、初産でしたが、開業医の先生のお陰で、順調でした。ところが、難産で、仮死状態とのこと。新生児に対応できる病院へ孫だけが救急搬送され、顔を見ることもできず、娘と共に、心配で泣きながら祈り続けました。

幸い孫は助けていただき後遺症もなく元気に育っています。

刈田病院では他院への搬送のない、新生児や帝王切開などの**緊急時の対応ができる体制**であることを切にお願いしたいです。（H）

「市立病院とは何か」確認が必要

根本は、「市立病院とは何か」である。

本紙によると、現在１４９病床のうち、一般病床は50だけ。看護師不足を外国人特定技能者で補えるのは、介護のみという。

職員は解雇・減給され、外国人に代わる。救急は遠隔地の病院へ。周産期はなお政治公約の域を出ず、今の妊産婦を支援する経過措置もない。一方で、現給保障など枠外の財政負担が生じている。

「市立病院に求められる医療は何か。契約金額で何をどう実現できるのか。できないものをどう補うか」根本の確認と共有が必要と思う。（M）

鈴木喜久男医師は公立刈田綜合病院を今年６月で退職されました。38年間、地域の宝である子ども達を守っていただきました。

子ども医療費助成

どうして白石市だけ 15歳まで？

◎県内全市町村　18歳まで（除：政令市・白石市）

編集後記。

小児救急の原稿依頼をお引受けいただいた鈴木喜久男先生、原稿をお寄せくださった市民の方々、紙面作成にご協力いただいた関係各位に改めて御礼申し上げます。

次回は医療のみならず地域の子育て支援などについても取り上げます。皆さんのご意見をお待ちしております（T）